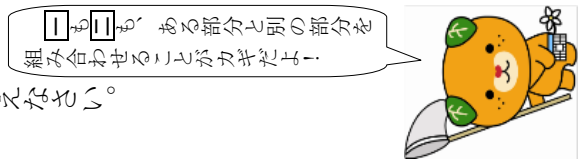
中学校　国語【フォローアップシート】　3



次の一、二の文章を読んで、それぞれあとの問いに答えなさい。

一

川野さんたちは、「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の俳句について、次のように話し合っています。

池田　俳句の言葉を手掛かりに、作者である正岡子規が描写した世界を想像しましょう。

花山　「法隆寺」とあるから、子規は、有名な五重塔のそばで柿を食べていたのだと思うよ。

池田　「柿食えば」の後に「鐘が鳴る」と表しているので、法隆寺から少し離れたところで柿を食べていた子規が、鐘の音につられてそちらを見たのかもしれないわね。

川野　僕も最初、子規は法隆寺の境内でこの句を作ったのだと想像していたけれど、もし子規が境内にいたとしたら鐘の音がよく響いただろうから、秋のもつ切なさが感じられなくなるなあ。

花山　確かに五重塔のすぐ下で、子規が柿をほおばる姿は、何となくおかしな感じがする。秋らしさを最優先して考えると、この句が作られたのはきっと夕方だろうね。

川野　器に盛られた柿、夕日に浮かぶ五重塔のシルエット、背景の夕焼け。目の前、やや遠いところ、遠くの方と、赤みがかったオレンジと黒で構成された世界は、まさに秋だ。ということは、……

〈問い〉

――線部「ということは、……」の文を次のように表すとき、□に当てはまる言葉を、「～ではなく～」という形で、文章中の言葉を用いて**二十字以内**にまとめて書きなさい。

ということは、この句が作られた時間帯は夕方、子規がいた場所は、

だといえるね。

二

「ファーストペンギン」という言葉がある。意味は開拓者に似ている。あのおっとりしたペンギンと開拓者がなぜ結び付くのかと、疑問を感じる人は多いだろう。そのいわれはこうだ。

ペンギンは主に陸上で暮らす。しかし、ペンギンの生息地は極寒の地である。陸上にはほとんどエサがない。そこで、ペンギンは海にもぐって漁をする。彼らは長い時間、また深くまでもぐる能力をもっている。

海辺には、横に並んだペンギンの群れ。そこへ小魚の大群がやってきた。さあ、こちらそうを目がけていっせいに飛び込み、……とはならない。皆がためらうのだ。なぜなら、海の中にはペンギンを好物とするアザラシなどの外敵がいるかもしれないからだ。

このとき、真っ先に海に飛び込む者こそがファーストペンギンである。一羽が獲物を捕らえることに成功すれば、せきを切ったようにペンギンたちは海へとなだれ込む。　～**文章が続く**～

〈問い〉

「ファーストペンギン」という言葉について、その由来となる出来事を踏まえて説明します。次の□に当てはまる言葉を、文章中の言葉を用いて、**三十字以上、四十字以内**にまとめて書きなさい。

										30									

ペンギンのように、他に先がけて挑戦する人を指す言葉。

中学校　国語【フォローアップシート】　３　正答例

一　法隆寺の境内ではなく、少し離れたところ
五重塔のそばではなく、五重塔が見える場所　等

二　仲間がためらう中、外敵がいるかもしれない海に真っ先に飛び込む
アザラシなどを恐れず真っ先に海に飛び込み、獲物を捕らえることに成功する　等